

2014年度 ルール変更 対照表
スポーツルール総則

変更前の内容	変更後の内容																					
<p>セクション A — スポーツルールとトレーニング</p>	<p>セクション A — スポーツルールとトレーニング</p> <p>6. 参加について</p> <p>全てのチームは、プレーヤーがケガや懲罰を理由に退場している場合を除き、資格を有するチームメンバー全員を試合ごとに出場させなければならない。もし承認されたトーナメント登録者リストに名前のあるプレーヤーがケガや懲罰を理由に出場できない場合には、コーチは大会責任者へ試合前に通知しなければならない。</p>																					
<p>セクション C — 行動規範</p> <p>1. 行動規範</p> <p>アスリートとコーチ、および競技審判の行動規範は、スポーツルールの補足 D に記載されている。これらは最低基準であり、各国認定プログラムの理事会は追加基準を設定または定めることができる。</p>	<p>セクション C — 行動規範</p> <p>1. 行動規範</p> <p>アスリート、ユニファイドパートナーとコーチ、および競技審判の行動規範は、スポーツルールの補足 D に記載されている。これらは最低基準であり、各国認定プログラムの理事会は追加基準を設定することができる。</p>																					
<p>セクション D — スペシャルオリンピックス競技の区分</p> <p>2. 公式競技、準公式競技、ならびに地域で人気の高い競技の分類基準については、下記表を参照のこと。</p> <table border="1" data-bbox="108 1451 783 2018"> <thead> <tr> <th>公式競技</th> <th>準公式競技</th> <th>地域で人気の高い競技</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SOI(国際本部) 公認コーチングガイドがある</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>SOI 公認スポーツマネジメント チームガイドがある</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>少なくとも 24 の各国認定プログラムが、プログラ</td> <td>少なくとも 12 の各国認定プログラムが、プログラ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	公式競技	準公式競技	地域で人気の高い競技	SOI(国際本部) 公認コーチングガイドがある			SOI 公認スポーツマネジメント チームガイドがある			少なくとも 24 の各国認定プログラムが、プログラ	少なくとも 12 の各国認定プログラムが、プログラ		<p>セクション D — スペシャルオリンピックス競技の区分</p> <p>2. 公式競技、準公式競技、ならびに地域で人気の高い競技の分類基準については、下記表を参照のこと。</p> <table border="1" data-bbox="810 1451 1485 1888"> <thead> <tr> <th>公式競技</th> <th>準公式競技</th> <th>地域で人気の高い競技</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SOI(国際本部) 公認コーチングガイドがある</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(削除)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	公式競技	準公式競技	地域で人気の高い競技	SOI(国際本部) 公認コーチングガイドがある			(削除)		
公式競技	準公式競技	地域で人気の高い競技																				
SOI(国際本部) 公認コーチングガイドがある																						
SOI 公認スポーツマネジメント チームガイドがある																						
少なくとも 24 の各国認定プログラムが、プログラ	少なくとも 12 の各国認定プログラムが、プログラ																					
公式競技	準公式競技	地域で人気の高い競技																				
SOI(国際本部) 公認コーチングガイドがある																						
(削除)																						

ムレベルの大会 (ナショナルゲーム等)で運営している*	ムレベルの大会 (ナショナルゲーム等)で運営している*		少なくとも 24 の 各国認定プログラムが、プログラムレベルの大会 (ナショナルゲーム等)で運営している*	少なくとも 12 の 各国認定プログラムが、プログラムレベルの大会 (ナショナルゲーム等)で運営している*	
その 24 のプログラムは、最低 3 つの SO のリージョンを代表していなければなら ない	その 12 のプログラムは、最低 2 つの SO のリージョンを代表していなければなら ない		その 24 のプログラムは、最低 3 つの SO のリージョンからの代表でなければなら ない	その 12 のプログラムは、最低 2 つの SO のリージョンからの代表でなければなら ない	
SOI スポーツリ ソースチームが 設置されている	SOI スポーツリ ソースチームが 設置されている	プログラムの理 事会がスポーツ を承認している	SOI スポーツリ ソースチームが 設置されている	SOI スポーツリ ソースチームが 設置されている	プログラムの理 事会がスポーツ を承認している
国際スポーツ連 盟が設置されて おり、スペシャル オリンピックスの ために刊行され たルールを承認 している	国際スポーツ連 盟が設置されて おり、スペシャル オリンピックスの ために刊行され たルールを承認 している	国内競技団体が 設置されており、 スペシャルオリン ピックスのために 刊行されたルー ルを承認してい る	国際スポーツ連 盟が設置されて いる。	国際スポーツ連 盟が設置されて いる。	国内競技団 体が設置されて いる。
標準化されたス ペシャルオリン ピックスルール が刊行されてお り、プログラムお よび、リージョン や世界大会にて 一様に施行され ている	標準化されたス ペシャルオリン ピックスルール が刊行されてお り、プログラムに て一様に施行さ れている	標準化されたス ペシャルオリン ピックスルール が刊行されてお り、プログラムに て一様に施行さ れている	標準化されたス ペシャルオリン ピックスルール が刊行されてお り、プログラムお よび、リージョン や世界大会にて 一様に施行され ている	標準化されたス ペシャルオリン ピックスルール が刊行されてお り、プログラムに て一様に施行さ れている	標準化されたス ペシャルオリン ピックスルール が刊行されてお り、プログラムに て一様に施行さ れている
SOI スポーツ部 門が健康および 安全面のリスク アセスメントを 実施している	SOI スポーツ部 門が健康および 安全面のリスク アセスメントを 実施している	認可された SO のプログラムが 健康および安全 面のリスクアセ スメントを実施 している	SOI スポーツ部 門が健康および 安全面のリスク アセスメントを 実施している	SOI スポーツ部 門が健康および 安全面のリスク アセスメントを 実施している	認可された SO のプログラムが 健康および安全 面のリスクアセ スメントを実施 している

* = PDS 年次報告書による

* = 年次センサス(アスリート活動調査)による

<p>3. 公式競技 夏季公式競技 水泳競技、陸上競技、体操競技、バスケットボール、バドミントン、ボッチャ、ボウリング、自転車競技、馬術、フットボール(サッカー)、ゴルフ、ハンドボール、柔道、新体操、パワーリフティング、ローラースケート、セーリング、ソフトボール、卓球、テニス、バレーボール</p> <p>冬季公式競技 アルペンスキー、クロスカンリースキー、フィギュアスケート、フロアホッケー、スノーボード、スノーシューイング、ショートトラックスピードスケート</p>	<p>3. 公式競技 夏季公式競技 水泳競技(競泳)(オープンウォータースイミング)、陸上競技、バスケットボール、バドミントン、ボッチャ、ボウリング、自転車、馬術、フットボール(サッカー)、ゴルフ、ハンドボール、柔道、体操競技、新体操、パワーリフティング、ローラースケート、セーリング、ソフトボール、卓球、テニス、バレーボール(屋内、ビーチバレーボール)</p> <p>冬季公式競技 アルペンスキー、クロスカンリースキー、フィギュアスケート、フロアボール、フロアホッケー、ショートトラックスピードスケート、スノーボード、スノーシューイング</p>
<p>4. 準公式競技 冬季準公式競技 フロアボール</p>	<p>4. 準公式競技 (削除)</p>
<p>セクション E — 大会または競技会の開催頻度(招待大会など)</p>	<p>セクション E — スペシャルオリンピックス スポーツトレーニングと競技会に関する一般的要件</p>
<p>1. 競技会の機会 各国認定プログラムは、ゼネラルルールのセクション 3.03.c “トレーニングと競技会の一般規定”に概略が述べられているように、定期的な競技会の機会を提供しなければならない(補足 E 参照)。</p>	<p>1. 競技会の機会 各国認定プログラムは、ゼネラルルールのセクション 3.03.c “トレーニングと競技会の一般規定”に概略が述べられているように、定期的な競技会の機会を提供しなければならない。</p>
<p>セクション F — 医療および安全面の必要条件</p> <p>3. コーチの責任 コーチは全てのアスリートの健康と安全を最優先に考えなければならない。これはスペシャルオリンピックスのスポーツチームに参加するアスリートを適切に選出するためには、特に重要となるポイントである。 他のチームメンバーより極めて技術が優れている個人については、競技に参加することで他のメンバーに危険を及ぼす可能性があるという理由で、スペシャルオリンピックスのチーム競技への参加が禁止される場合がある。</p>	<p>セクション F — 医療および安全面の要件</p> <p>3. コーチの責任 コーチは全てのアスリートの健康と安全を最優先に考えなければならない。これはスペシャルオリンピックスのスポーツチームに参加する適切なアスリートを選出するためには、特に重要となるポイントである。 他のチームメンバーと比べて技術や体格が極めて異なる個人については、競技に参加することで自身や他のメンバーに危険を及ぼす可能性があるという理由で、スペシャルオリンピックスのチーム競技への参加が禁止される場合がある。</p>

<p>5. 環軸椎不安定（亜脱臼）性のダウン症アスリート 環軸椎不安定（亜脱臼）性のダウン症アスリートの参加については、補足 F を参照のこと。</p>	<p>5. 環軸椎不安定（亜脱臼）性 環軸椎不安定（亜脱臼）性のダウン症アスリートの参加については、補足 E を参照のこと。</p>
<p>セクション G — ルール委員会</p>	<p>セクション G — ルール委員会</p> <p>2. 技術代表</p> <p>a. 技術代表は当該競技に対する主要競技アドバイザーとしてスペシャルオリンピックスを代表し、また大会組織委員会 (GOC) がスペシャルオリンピックス公式スポーツルールとその変更点、国際スポーツ連盟のルールと最新ルールが確実に解釈、実践、並びに使用されていることに責任を持つ。技術代表は安全で、質の高い、また威厳のある競技環境を確保するために、当該競技の技術的要件を大会組織委員会に助言する。</p> <p>b. 技術代表はジュリー/スポーツルール委員会の議長を務める。そこではスペシャルオリンピックスや国際スポーツ連盟並びに国内スポーツ連盟のルールに関連する、適切に提出された抗議についての決定を行い、抗議過程の適切な実行に責任を持つ。技術代表は票数が同じだった場合に決定投票を行う。</p>
<p>セクション H — 競技会参加の年齢条件とグループ分け</p> <p>1. 年齢要件</p> <p>2 歳半から 7 歳までの子どもはスペシャルオリンピックスの競技に参加できないが、スペシャルオリンピックスの規則に則ってトレーニングには参加できる。</p>	<p>セクション H — 競技会参加の年齢条件とグループ分け</p> <p>1. 年齢要件</p> <p>2 歳半から 7 歳までの子どもはスペシャルオリンピックスの競技に参加できないが、年齢にふさわしいスペシャルオリンピックスのプログラムには参加できる。</p>

<p>2.すべてのスペシャルオリンピックス競技会において、通常次の年齢グループを適用する。</p> <p>b. チーム種目：(例：リレー、チーム競技、ダブルス)</p> <p>15 歳以下 16 歳－21 歳 22 歳以上</p> <p>22 歳以上のグループに該当するチーム数が相当数ある場合は、年齢グループを追加することができる。チームの年齢グループは、競技会開会日におけるチーム最年長のアスリートの年齢によって決定される。</p>	<p>2. 年齢グループ</p> <p>b. チーム種目：(例：リレー、チーム競技、ダブルス)</p> <p>15 歳以下 16 歳－21 歳 22 歳以上</p> <p>22 歳以上のグループに該当するチーム数が相当数ある場合は、年齢グループを追加することができる。チームを構成するときには年齢枠を設定することが推奨される。しかしながら、チーム構成に関する健康や安全への配慮がなされている場合には弾力性が許可される。チームの年齢グループは、競技会開催日におけるチーム最年長のアスリートの年齢によって決定される。チームを構成する時には以下の基準について考慮されなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アスリート／ユニファイドパートナーの安全 2) 参加する機会 3) 競技会の質 4) 意義のある参加 5) 社会的インクルージョン 6) 年齢
<p>2. 年齢区分</p>	<p>2. 年齢区分</p> <p>d. 年齢グループは国際競技団体や国内競技団体のルールに適合させるため、変更する場合がある。</p>
<p>セクション H — 競技会参加の年齢条件とグループ分け</p> <p>3. 年齢グループの統合</p> <p>年齢グループは次の状況において統合することができる：</p>	<p>セクション H — 競技会参加の年齢条件とグループ分け</p> <p>3. 年齢グループの統合</p> <p>年齢グループは全参加者の健康と安全に配慮がなされた次の状況において統合することができる</p>
<p>セクション H — 競技会参加の年齢条件とグループ分け</p> <p>3. 年齢グループの統合</p> <p>b. チーム競技において、各能力グループ内で異なる年齢グループと対戦する場合がある。同年齢グループ、あるいは同能力グループ内でチームが 1 つしかない場合、そのチームは異なる年齢あるいは能力のグループと対戦しなければならない。</p>	<p>セクション H — 競技会参加の年齢条件とグループ分け</p> <p>3. 年齢グループの統合</p> <p>b. チーム競技：各能力別グループの中で別の年齢グループのチームと対戦する場合がある。もし各年齢グループや能力別グループに1チームしかいない場合は、別の年齢グループと／または別の能力別グループと試合することもある。</p>

<p>セクション I — スペシャルオリンピックスのディビジョニング</p> <p>2.ディビジョニングにおける競技能力ならびに決定基準</p> <p>a. アスリートの能力は、スペシャルオリンピックス競技会においてディビジョニングを行う際の主な要素となる。アスリートやチームの能力は、エントリー時に提出する事前の競技会の成績、もしくは出場する競技会におけるシード戦または予選の結果に基づいて判断される。そのため、チームのヘッドコーチは、ディビジョニングに活用されるアスリートの成績が、アスリートの真の競技能力を最も正確に反映するものか確認する責任がある。ディビジョニングの過程で活用される予選の成績をコーチが修正できるよう、フォームを準備しておく必要がある。なお、競合性のあるディビジョニングを設定するために重要となる他の要因として、年齢と性別がある。</p> <p>注:これらのルールに記載されている「予選」とは、競技会場で決勝ディビジョンを決定するために行われるディビジョニングのことを指す。</p>	<p>セクションI — スペシャルオリンピックスのディビジョニング</p> <p>2. ディビジョニングにおける競技能力ならびに決定基準</p> <p>a. アスリートの能力は、スペシャルオリンピックス競技会においてディビジョニングを行う際の主たる要素となる。アスリートやチームの能力レベルは、エントリー時に提出する事前の競技会の成績、もしくは出場する競技会におけるシード戦または予選の結果に基づいて判断される。そのため、チームのヘッドコーチは、ディビジョニングに活用されるアスリートの成績が、アスリートの真の競技能力を最も正確に反映するものか確認する責任がある。ディビジョニングの過程で活用される予選の成績をコーチが修正できるよう、行程を用意しておく必要がある。なお、競合性のあるディビジョニングを設定するために重要となる他の要因として、年齢と性別がある。</p> <p>注:これらのルールに記載されている「予選」とは、競技会場で決勝ディビジョンを決定するために行われるディビジョニングのことを指す。</p>
<p>セクション I — スペシャルオリンピックスのディビジョニング</p> <p>5.ディビジョニングの課題の解決</p> <p>a.</p> <p>2) 競技能力幅の修正:15%の指針を超えて競技能力幅を広げることができる。</p>	<p>セクションI — スペシャルオリンピックスのディビジョニング</p> <p>5.ディビジョニングの課題の解決</p> <p>a.</p> <p>2) 競技能力幅の修正:アスリートへ健康や安全でのリスクが生じない場合、15%の指針を超えて競技能力幅を広げることができる。</p>
<p>セクション J —マキシマムエフォートルール(以前のオネストエフォートルール)</p> <p>1. マキシマムエフォートルール適用理由</p> <p>a. アスリートに公平に競い合う環境を提供するため- 競技会の公平性</p>	<p>セクションJ —マキシマムエフォートルール(以前のオネストエフォートルール)</p> <p>1. マキシマムエフォートルール適用理由</p> <p>a. アスリートに公平に競い合う環境を提供するため</p>

<p>3. マキシマムエフォートパフォーマンスパーセンテージの設定、およびマキシマムエフォートルールを適用する場合に考慮すべき制限要因</p> <p>b. 種目タイプスコアにおける自然な差</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 例えば、立ち幅跳び競技においては、30cmというかなり短い距離の改善であっても、ディビジョニングと決勝の間のパフォーマンス差としては、かなりのインパクトがあるであろう。よって、より大きなパーセントとする必要がある。 2) しかしながら、3000m 走などの競技において、たった10秒のスコアの改善は、ディビジョニングと決勝間において顕著なパーセンテージ改善を起こさないであろう。よって、より小さなパーセンテージとする必要がある。 	<p>3. マキシマムエフォート・パフォーマンス・パーセンテージの設定、およびマキシマムエフォートルールを適用する場合に考慮すべき要因</p> <p>b. 種目タイプスコアにおける自然な差の例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 立ち幅跳び競技においては、30cmというかなり短い距離の改善であっても、ディビジョニングと決勝の間のパフォーマンス差としては、かなりのインパクトがあるであろう。よって、より大きなパーセントとする必要がある。 2) 3000m走などの競技において、たった10秒のスコアの改善は、ディビジョニングと決勝間において顕著なパーセンテージ改善を起こさないであろう。よって、より小さなパーセンテージとする必要がある。
<p>セクション M-スペシャルオリンピックスユニファイドスポーツ</p> <p>スペシャルオリンピックスユニファイドスポーツには、知的障害のある個人とない個人が参加する 3 つのスポーツモデルがある。それは、ユニファイドスポーツ、ユニファイドスポーツ・プレーヤーデベロップメントそしてユニファイドスポーツ・レクリエーションの 3 つである。この 3 つ全てにおいて、アスリート(知的障害のある個人)とパートナー(知的障害のない個人)は共にチームメイトとして競技に参加する。主たる成果として、3 モデル全てにおいて社会参加を促進する一方で、各モデルの構造や機能はそれぞれ異なる。</p>	<p>セクションM-スペシャルオリンピックス・ユニファイドスポーツ®</p> <p>スペシャルオリンピックス・ユニファイドスポーツには、知的障害のある個人とない個人が参加する3つのスポーツモデルがある。それは、ユニファイドスポーツ、ユニファイドスポーツ・プレーヤーデベロップメントそしてユニファイドスポーツ・レクリエーションの3つである。この3つ全てにおいて、アスリート(知的障害のある個人)とパートナー(知的障害のない個人)は共にチームメイトとして競技に参加する。主たる成果として、3モデル全てにおいて社会参加を促進する一方で、各モデルの構造や機能はそれぞれ異なる。どのモデルであるかに関わらず、ユニファイドスポーツチームを障害のある人だけで構成することはできない。</p>
<p>セクション M-スペシャルオリンピックスユニファイドスポーツ®</p> <p>ユニファイドスポーツ</p> <p>ユニファイドスポーツは、競技性のあるモデルであり、ほぼ同数のスペシャルオリンピックスアスリート(知的障害のある個人)とパートナー(知的障害のない個人)が共に、チーム競技のチームメイトとして競技およびトレーニングに参加する。ユニファイドスポーツチームに参加するすべて</p>	<p>セクションM-スペシャルオリンピックス・ユニファイドスポーツ®</p> <p>競技性のあるユニファイドスポーツ</p> <p>競技性のあるユニファイドスポーツモデルでは、ほぼ同数のスペシャルオリンピックスアスリート(知的障害のある個人)とパートナー(知的障害のない個人)が共に、チーム競技のチームメイトとして競技およびトレーニングに参加する。競技性のあるユニファイドスポーツに参加するすべて</p>

<p>のアスリートとパートナーは、現行のスペシャルオリンピックス公式スポーツルールを変更することなく競技を行うため、必要とされる競技スキルおよび戦略を身につけている必要がある。ユニファイドスポーツチームは、アスリートとパートナーがほぼ同数で行う包括的なスポーツプログラムである。ユニファイドスポーツチームは、障害のある人々のみで構成されてはならない。アスリートとパートナーは同程度の年齢と競技能力でなければならない。アスリートとパートナーの年齢および競技能力の組み合わせは、競技ごとに定義され、本セクション最後にある表に示されている。</p>	<p>のアスリートとパートナーは、現行のスペシャルオリンピックス公式スポーツルールを変更することなく競技を行うため、必要とされる競技スキルおよび戦略を身につけている必要がある。ユニファイドスポーツチームは、アスリートとパートナーがほぼ同数で行う包括的なスポーツプログラムである。アスリートとパートナーは同程度の年齢と競技能力でなければならない。アスリートとパートナーの年齢および競技能力の組み合わせは、競技ごとに定義され、本セクション最後にある表に示されている。</p>
<p>セクション M-スペシャルオリンピックスユニファイドスポーツ ユニファイドスポーツ・レクリエーション ユニファイドスポーツ・レクリエーションは、スペシャルオリンピックスのアスリートと知的障害のないパートナーのための包括的なレクリエーションスポーツの機会である。このモデルは社会参加や競技能力および知識の向上を推進する。しかしながらユニファイドスポーツ・レクリエーションチームはユニファイドスポーツやユニファイドスポーツ・プレーヤーデベロップメントチームに比べると構造化されていない。ユニファイドスポーツ・レクリエーションチームにおいては、最低限のトレーニング、競技、チーム構成条件に関して、スペシャルオリンピックススポーツルール第1章で明記されていることを満たさなくてもよい。このような機会は学校やクラブ、地域そして公私を問わず様々な機関で開催される。</p>	<p>セクションM-スペシャルオリンピックス・ユニファイドスポーツ® ユニファイドスポーツ・レクリエーション ユニファイドスポーツ・レクリエーションは、スペシャルオリンピックスアスリートとパートナーにとっての包括的なレクリエーションスポーツのイベント(トレーニングや競技会)である。ユニファイドスポーツ・レクリエーションのイベントでは、ユニファイドスポーツ・プレーヤーデベロップメントと競技性のあるユニファイドスポーツのモデルで設定されているトレーニングや競技会、チーム構成に関わる要件などを満たす必要がない。しかし、スペシャルオリンピックスが主催するか、あるいはスペシャルオリンピックスと直接協力して開催しなければならない。このような機会は学校やクラブ、地域そして公私を問わず様々な機関で開催される。最少でもユニファイドスポーツ・レクリエーションの参加者の内、25%が知的障害のある人であるか、知的障害のない人でなければならない。残りの50%は障害のある人とならない人で構成される。</p>
<p>セクション M-スペシャルオリンピックスユニファイドスポーツ ユニファイドスポーツルール 3.競技会の実施 c. 意義のある参加は、最適な参加にするためにチームメンバー(アスリートとパートナー)が行う努力であり、各プレーヤーがチームの成功のために貢献するという原則に基づいている。どのチーム構成においても、プレー</p>	<p>セクション M-スペシャルオリンピックス・ユニファイドスポーツ® ユニファイドスポーツの競技的ルール 3.競技会の実施 c. 意義のある参加は、最適な参加にするためにチームメンバー(アスリートとパートナー)が行う努力であり、各プレーヤーがチームの成功のために貢献するという原則に基づいている。どのチーム構成においても、プ</p>

<p>ヤーは必要な競技能力を身につけていなければならない。プレーを支配し、チームの成功のためにチームメイトを除外するプレーヤー、競技中に健康面あるいは安全面において危険性のあるプレーヤーは、チームに入ってはいけない。プレーを支配することを認めれば、他のプレーヤーの役割や機会は大幅に限定されたものになり、スペシャルオリンピックスユニファイドスポーツルールの精神や意図、哲学を崩すこととなる。その場合にはスポーツルールごとに制定された規範、および規則に則って対応がとられる。</p> <p>d. オフィシャルは、特定のプレーヤーがプレーを支配していると判断した場合、そのプレーヤーおよび/またはコーチを罰することができる。プレーヤーおよび/またはコーチに対する制裁内容としては次のものがある：警告、スポーツマンらしくない行動をしたプレーヤーの召還、試合からの排除。</p>	<p>プレーヤーは必要な競技能力を身につけていなければならない。プレーを支配し、チームの成功のためにチームメイトを除外するプレーヤー、競技中に健康面あるいは安全面において危険性のあるプレーヤーは、チームに入ってはいけない。プレーを支配することを認めれば、他のプレーヤーの役割や機会は大幅に限定されたものになり、スペシャルオリンピックス・ユニファイドスポーツルールの精神や意図、哲学を崩すこととなる。その場合にはスポーツルールごとに制定された規範、および規則に則って対応がとられる。</p> <p>違反に対する帰結は次のとおり：</p> <ul style="list-style-type: none"> i 特定プレーヤーに対する処罰(自発的な交代を促す、テクニカルファウル、警告、イエローカード、退場) ii チーム全体への影響(試合の没収、トーナメントからの資格はく奪) <p>d. オフィシャルは、特定のプレーヤーがプレーを支配していると判断した場合、そのプレーヤーおよび/またはコーチを罰することができる。制裁にはプレーヤーやコーチへの警告、プレーヤーやコーチへスポーツマンらしくない行動と指摘、プレーヤーやコーチの試合からの退場がある。また、オフィシャルを支持し、試合における課題を明確にし、意義ある参加を実践がなされるように権限を与えられたユニファイドスポーツの専門家(技術代表、大会責任者)を指定する。</p>
<p>スペシャルオリンピックス ユニファイドスポーツ® 競技パラメーター ネットボール 水泳競技、陸上競技、クロスカントリースキー、スノーシューイング 近似年齢/近似能力 義務</p>	<p>スペシャルオリンピックス ユニファイドスポーツ® 競技パラメーター 削除 水泳競技、陸上競技、クロスカントリースキー、スノーシューイング 近似年齢/近似能力 推奨</p>

<p>補足 A - スポーツルール諮問委員会 (SRAC)</p> <p>1.補足 A.1-スポーツルール諮問委員会</p> <p>b. SRAC は、スポーツ専門家、コーチ、ファミリー、アスリート、オフィシャル、各国認定プログラムのエグゼクティブ/ナショナルディレクター、あるいは SOI の理事によって構成される。諮問委員は、世界中の各国認定プログラムから選任されるものとし、可能な限り実際的で、地理的にも多様で国際的な対象範囲から選ばれるものとする。</p>	<p>補足 A - スポーツルール諮問委員会 (SRAC)</p> <p>1. 1.補足 A.1-スポーツルール諮問委員会</p> <p>b. SRAC は、スポーツ専門家、各国認定プログラムのエグゼクティブ/ナショナルディレクター、あるいはSOI の理事によって構成される。諮問委員は、世界中の各国認定プログラムから選任されるものとし、可能な限り実際的で、地理的にも多様で国際的な対象範囲から選ばれるものとする。</p>
	<p>d. SOIは委員の1年ごとの任期延長について、次の選任次期との兼ね合いを確実にするための裁量を持つ。</p>
<p>補足 A - スポーツルール諮問委員会 (SRAC)</p> <p>3.補足 A.3 - スペシャルオリンピックス・スポーツルールの改訂、修正および定義を採用するための手順</p> <p>b.ルール変更提案に対する評価基準</p> <p>1) 国際競技連盟/国内競技連盟、あるいは他の競技連盟において、この提案に関する言及は存在するか？存在する場合には、詳細または参照を示すこと。</p> <p>5) 本提唱はフィールドテストを行ったか？本提唱を実証する統計データあるいは結果はどのようなものか？</p>	<p>補足 A - スポーツルール諮問委員会 (SRAC)</p> <p>3.補足 A.3 - スペシャルオリンピックス・スポーツルールの改訂、修正および定義を採用するための手順</p> <p>b. ルール変更提案に対する評価基準</p> <p>1) 国際競技連盟/国内競技連盟、あるいは他の競技連盟において、この提案に関する言及は存在するか？存在する場合には、詳細または参照を示すこと。</p> <p>5) 本提案はフィールドテストを行ったか？本提案を裏付ける統計データあるいは結果はどのようなものか？</p>
	<p>12) ルールはスペシャルオリンピックスの基本哲学を保っているか？</p>
<p>補足 B - 国際競技連盟</p> <p>フロアボール</p> <p>Floorball International Floorball Federation (IFF)</p> <p>Alakiventie 2,</p> <p>00920 HELSINKI FINLAND</p> <p>T: +358-9 454 214 25</p> <p>F: +358-9 454 214 50</p> <p>Internet: www.floorball.org</p>	<p>補足 B - 国際競技連盟</p> <p>フロアボール</p> <p>Floorball International Floorball Federation (IFF)</p> <p>Alakiventie 2,</p> <p>00920 HELSINKI FINLAND</p> <p>T: +358-9 454 214 25</p> <p>Internet: www.floorball.org</p>

<p>ネットボール International Federation of Netball Associations (IFNA) Belle Vue Leisure Centre Kirkmanshulme Lane M12 4TF Longsight, MANCHESTER UK T: +44 161 / 953 2459 F: +44 161 / 953 2492 Internet: www.netball.org</p>	<p>(削除)</p>
<p>補足 B - 国際競技連盟 バレーボール Federation Internationale de Volleyball (FIVB) 12 avenue de la Gare 1001 LAUSANNE SWITZERLAND T: +41 21 / 345 35 35 F: +41 21 / 345 35 45 Internet: www.fivb.org</p>	<p>補足 B - 国際競技連盟 バレーボール Federation Internationale de Volleyball (FIVB) Château Les Tourelles” Ch. Edouard-Sandoz 2-41006 LAUSANNE SWITZERLAND T: +41 21 / 345 35 35 F: +41 21 / 345 35 45 Internet: www.fivb.org</p>
<p>補足 D - 宣誓と行動規範 スペシャルオリンピックスのアスリート行動規範</p>	<p>補足D - 宣誓と行動規範 スペシャルオリンピックスのアスリートとユニファイドパートナーの行動規範</p>
<p>補足 D - 宣誓と行動規範 スペシャルオリンピックスのコーチ行動規範 他人に対する敬意 私はスペシャルオリンピックスのアスリート、コーチ、その他のボランティア、友人、そして観客の権利、尊厳、及び価値を尊重します。 私は性別、人種、宗教、能力に関わらず、全ての人を公平に扱います。 私は自分がコーチをしているアスリートの良い手本となります。</p>	<p>補足D - 宣誓と行動規範 スペシャルオリンピックスのコーチ行動規範 他者に対する敬意 私はスペシャルオリンピックスのアスリート、ユニファイドパートナー、コーチ、その他のボランティア、友人、そして観客の権利、尊厳、及び価値を尊重します。 私は性別、人種、宗教、能力に関わらず、全ての人を公平に扱います。 私は自分がコーチをしているアスリートの良い手本となります。</p>
<p>補足 E - スポーツトレーニングならびに競技会の一般規定 ゼネラルルールのセクション 3.03(b)を参照のこと。</p>	<p>(削除)</p>
	<p>補足E - 脊髄圧迫や環軸椎不安定(亜脱臼)性を持つ可能性のあるアスリートの参加 脊椎損傷 脊椎損傷はまれだが、スポーツの状況では悲惨な事故と</p>

なる。脊椎損傷の中には危険要因が事前に見受けられない健康な人にも起こることがある。しかしながらアスリートは脊椎圧迫の兆候や症状を前から持っていることがある。脊椎圧迫は脊椎の骨が脊髄を強く圧迫している状態を意味する。これはスポーツ中の動きや衝撃で脊椎のケガや断絶を招くことが証明されている。このように、脊椎圧迫の兆候や症状を持つアスリートのことを気づいておくのが重要である。

スペシャルオリンピックスのアスリートの中で、最も良く知られるタイプの脊椎圧迫は症候性環軸椎不安定(亜脱臼)である。環軸椎亜脱臼はダウン症のアスリートによく見られる。ダウン症アスリートの約1.5%が脊椎圧迫か環軸椎亜脱臼の神経学的兆候を持つ。

しかしながら、脊椎圧迫は脊椎のあらゆる位置で起こる可能性があり、またダウン症の人に限ったことではない。

脊椎圧迫の兆候や症状は深刻にとらえるべきであり、この圧迫を治療することによって、アスリートは永続的な、また悲惨なケガを防ぐことができる。脊椎圧迫の症状には次のものがある。

手、足、腕や脚の感覚麻痺や痛み

手、足、腕や脚の脱力

歩行の異常な変化

協調性の変化

痙性

まひ

排便や尿のコントロールが難しい

頭位傾斜

腕や首、肩、手や背中に焼けるようにするどい、神経を圧迫するような痛み

もし他の症状が見られた場合、特にそれが初めての症状であれば、アスリートは脊椎損傷の危険にさらされている可能性がある。全てのスポーツ活動は止めて、直ちに医師へ、アスリートの潜在的な危険性を診察し、内在する骨格についての問題を直すために連絡すること。以下のゼネラルルールを追加の手引きとして参照すること。

この項目はゼネラルルール セクション2.02(g)より転載する

症候性環軸椎不安定(亜脱臼)を含む脊椎圧迫の症状のあるアスリートの参加

第1、第2頸椎を含む背骨のあらゆる部分で起こる脊椎圧迫は、環軸椎不安定(亜脱臼)として知られており、圧迫部分の脊椎骨を過度に動かすことによってケガをする可能性がある。頸部や上部頸椎の伸び過ぎや過激な屈曲は重篤な損傷を引き起こす可能性がある。すべての認定プログラムは、健康診断時に脊椎圧迫や症候性環軸椎不安定(亜脱臼)の症状が見られたアスリートが身体運動をする際、次の事前措置をとらなければならない。

(1) 症状の判定: 全てのアスリートは、ゼネラルルール第2章にある参加前標準健康診断の受診時、脊椎圧迫や症候性環軸椎不安定(亜脱臼)に由来するものを含む、神経学的に悪影響をもたらす症状について免許を持つ医療専門家による検査を受けなければならない。このような症状には次のものがある。深刻な首の痛み、神経根痛(局所的な神経痛)、脱力、感覚麻痺、痙性(一部の筋肉の異常な緊張)や筋緊張の変化、歩行困難、反射の亢進(深部腱反射が極めて反応性が高い)、排便や排尿機能の変化、脊髄症(脊椎への損傷)の症状

(a) 症状の存在: 免許を持つ医療専門家が脊椎圧迫や症候性環軸椎不安定の症状の存在を確認した場合、このようなアスリートは次の状況においてのみ、自分で選択したスペシャルオリンピックスのスポーツに参加することができる。(i) そのような判断をする資格のある医師から綿密な神経学的評価を受け、アスリートか未成年アスリートの親や保護者が医師の検査結果や決定を知らせた上で同意書へ署名をしている。

この項で求められている診断書と承諾書は、SO国際本部所定の書式「環軸椎不安定のアスリート特別権利放棄書」か、SO国際本部認定の改訂書式を使用する。(「環軸椎不安定に関する特別権利放棄書」)また、書類は認定プログラムに提出し、保管されること。



補足 F — 環軸椎不安定(亜脱臼)性のダウン症アスリートの参加

(削除)

この項目はゼネラルルールのセクション 2.02(g)より転載している。

スペシャルオリンピックスは脊柱に潜在的な危険をもたらす可能性のある特定の活動について、ダウン症のアスリートの参加を一時的に制限する場合がある。この制限は、第一脊椎(C1)が不安定でないことが X 線検査で証明された場合、解除される。

1. 各国認定プログラムは、全てのダウン症アスリートについて、大部分のスポーツトレーニングや競技会に参加し続けることを認めてよい。ただし、ダウン症のアスリートは、頸部や上部脊椎の過度の伸展、極端な屈曲、またはそれらへの直接的な圧迫が生じる競技のスポーツトレーニングや競技会に参加することはできない。ただし、第一脊椎(C1)が不安定でないことが X 線検査で証明された場合や、次項 2 の条件を満たした場合には、これらの競技への参加が認められる。参加するにあたって許可を必要とする競技種目には以下のものがある。

- a. バタフライや個人メドレー種目、水泳の飛び込みスタート
- b. 飛び込み
- c. 5種競技
- d. 高跳び
- e. 馬術競技
- f. 新体操
- g. サッカー(チーム種目)
- h. スノーボード
- i. 柔道
- j. アルペンスキー
- k. その他頭部と頸部に負担のかかる準備体操

環軸椎不安定性と診断されたいかなるアスリートも上記の活動に参加してはならない。ただし、成人アスリートまたは保護者(アスリートが未成年の場合)の署名がされたリスク承諾書と一緒に、スペシャルオリンピックス所定の用紙に2人の医師によってアスリートが競技参加することを認めた



証明をアスリートが提出した場合のみ、参加は認められる。	
-----------------------------	--